

播州織企業 布マスク増産へ 西脇「切望する声、想像以上」



急ピッチで作られていくマスク＝西脇市比延町、タマキニイメ

柔らかく色鮮やかなショールで知られる播州織の店舗兼工房「タマキニイメ」（西脇市比延町）が、通常の製造ラインを全面的に変更し、布マスクを増産する。新型コロナウイルスの感染拡大で需要が大幅に増えたため、5日午前11時からオンラインショップで予約を受ける。

同社は糸の染色から織り、縫製までを自社で行い、分業が中心の播州織産地ではまれな存在。一貫生産のためラインの切り替えは容易だといひ、国内で感染が

確認された2月からマスクの生産販売を始めていた。生産量はこれまで多くて週300枚だったが、播州織にとつて要となる織機の稼働も止め、製造スタッフの大半をマスク作りに充て、1日200枚作れる態勢にした。顔にあたる内側はカットソーやニットの柔らかい生地を使い、外側は織り生地やデニム地を用いてファッション性も高めた。

今月1、2日の受注会では、全国から約2千枚の注文を受けた。全体の受注数の上限は設けないといひ、同社の広報担当者は「マスクを切望する声は想像をはるかに超える。必要とする人のもとに確実に届けた」と話している。

1枚2200円で5枚まで購入できる。一部は店頭にも並べる。タマキニイメ 0795・38・8113
(長嶺麻子)

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

名前【 】

①西脇市の織物は何織と言われますか。

--	--

織

②マスクづくりの量をどれだけ増やしたでしょうか。

週

--	--	--

 枚

⇒ 1日

--	--	--

 枚

③増産に向けてどのような工夫をしたらでしょうか。

④ファッション性を高めるためにどんな工夫をしたらでしょうか。